

令和7年度校内研究

1 テーマ 〈3年計画3年次〉

子どもの理解や思いを大切にした授業づくり ～各教科の視点を取り入れて～

2 研究の目的

子どもの理解を見極めること、確かめることは授業づくりをしていく上で大切であり、それがよりよい授業や目標の設定、評価につながる。私たちは授業をするとき、教育を受ける子どもが、何ができて何ができないのかを見極めて授業をしているだろうか。また、毎年、同じ単元・題材を繰り返して設定し、指導内容・方法がマンネリ化していることはないだろうか。

そこで、よりよい授業づくりのために、教育を受ける子どもの立場になって、子どもの理解や思いを見極めながら、どのように指導していくとよいかを考える。その中で、学習指導要領にもとづいて各教科の視点を取り入れ、子どもが各教科で得られた知識を活用したり、問題を見いだして解決策を考えたりできるような授業づくりに取り組む。また、他の教科で身に付けた資質・能力の活用を促すことで深い学びにつなげられるようにする。

3 今年度の研究

(1) 研究の概要

授業シート(簡単な学習指導案)を活用しながら、学習活動場面に沿った対象児童生徒の理解や思いを推測し理解や思いを考える。その理解や思いにもとづいて、教師からの問いかけや仕掛け、児童生徒が考える場面と教師が教える場面などを考え、児童生徒の気づきや学びを促すようにする。また、単元を計画する際、各教科の目標・内容を確認し、関連する教科を授業シートに記入するようにする。

研究会は、実際の児童生徒の具体的な様子を VTR で振り返りながら、児童生徒の様子と理解について考察し、次の授業や単元などのまとまりで授業改善を行えるようにする。

今年度も、金沢大学人間社会研究域学校教育系教授の吉川一義先生を外部講師としてお招きし、研究担当者に研究の進め方や考え方についてご指導いただいたり、授業参観、研究会でご助言いただいたりすることで、研究についての学びを深める。

(2) 年間計画

| 月 | 学部学年ごとの研究会 | 全体の研究会 | 研究研修推進委員会 | 研究推進担当者会 |
|-------------------|--|-------------|-----------|----------------------------|
| 4 5 | ・研究計画の提案 | 9月 中間報告会 | 6月 第1回 | ・年間計画の立案 ・研究の進め方の検討 |
| 6～11 | ・対象児童生徒の実態、授業について話し合う ・グループごとに授業研究会 ・7月、9月吉川先生来校 (授業参観、授業研究会助言) | | | ・研究状況の確認と調整 ・吉川先生の助言の共有 |
| 12 1 2 3 | ・学部ごとに研究内容についてのアンケート ・研究のまとめ、くまどう原稿作成 | | | ・くまどう検討 ・来年度の研究内容について検討 |
| | | | 2月 第2回 | |

(3) 研究体制

研究研修推進委員会で校内の研究と研修に関する事柄について協議する。

図書研究部の研究推進担当者を中心に取組み内容や進捗状況の確認と調整を行いながら進める。研究推進担当者会は、必要に応じて実施する。

小学部低学年、小学部高学年、中学部、高等部のそれぞれで日時を決めて、研究会を行う。

外部講師として、昨年度に引き続き、金沢大学の吉川一義教授に助言を依頼した。

寄宿舎研究は、校内研究テーマに沿った内容ではなく、前年度から継続した研究内容に取り組む。

(4)取組み内容

研究は、小学部低学年から高等部まで、各学部単位で行った。各学部で二つのグループに分かれ、対象児童生徒は、グループから1名とした。研究対象授業は、小学部低学年は「遊びの指導」、小学部高学年と中学部Aグループ、高等部は「生活単元学習」、中学部Bグループは「作業学習」で取り組んだ。昨年度の研究では、教科等を合わせた指導において、各教科の視点をもって授業を計画するために、各教科の目標や内容を学習指導要領で確認した。しかし、授業内容を考えた後に、どの教科と関連しているかを考えるという形式的なものになってしまったことが課題であった。そこで、今年度は、各教科等を合わせた指導において、各教科の目標を達成するためにはどのような単元(題材)を設定するとよいかを研究会で考え、授業シートに記入するようにした。研究対象の授業は動画撮影し、授業研究会では、対象児童生徒の単元のねらいと見てほしいところ、話題にしたいところに関連する場面を中心に対象児童生徒の理解や思いについて話し合い、それにもとづいて支援を見直したり授業での仕掛けを考えたりして授業改善を行った。授業者や授業を行うクラスやグループだけではなく、全員が参加し、学びのある研究会となるように工夫した。

4 今年度の研究を終えて

今年度は、授業シートを一部変更し、対象児童生徒の実態を把握し、各教科の視点を取り入れて単元を設定し、授業を組み立てていく教師の思考の流れにより沿った形にした。それにより、各教科等を合わせた指導の授業において、各教科の目標を明確にして実践することができた。また、授業者だけでなく、参加者全員が、自分事として取り組み、自分の実践に生かせるような研究会となるよう、各学部の研究担当者が各学部の実情に合わせて計画し、取り組んだ。小学部低学年では、研究のまとめとして、各クラスで1名対象児を決めて遊びの指導の授業の動画を撮影し、各クラスで話し合ったことを模造紙にまとめ、学部内で発表し合う時間を設けた。研究授業で取り上げた対象児だけでなく、学部内の児童一人一人について考える機会をもてるようにした。小学部高学年では、宿泊学習という行事におけた単元を取り上げ、各クラスの児童を思い浮かべながら単元を通してどのような資質・能力の育成を目指していけるかについて学部全体で話し合い、それぞれのクラスでの実践へと還元した。また、その後の学部全体で行う「お店屋さんをしよう」の単元において、育成を目指していきたい資質・能力について再確認し、各クラスが児童の実態からどのような内容を計画しているかについて共有を図った。中学部では、対象授業について全員が関わって作り上げていくことを目指し、一人一役を担うようにした。授業のアイデアを考える班、教材作成班、記録班などに分かれて行うことで、授業担当以外の教師も自分事として捉えられるようにした。高等部では、研究グループを対象生徒と同学年の教師を中心に構成し、研究会での学びを、より学校生活全体での支援や指導にも繋げていけるようにした。

5 3年間の研究を終えて

3年間の研究を終えて、教員の意識の変化についてアンケートを行った。その結果、「日々の授業において、子どもの理解や思いを大切に作る意識が高まったか」については、94%の教員が「高まった」と回答した。また、「各教科等を合わせた指導を行う際に、各教科の視点の内容や目標を取り入れることを意識することができるようになったか」については、93%の教員が「高まった」と回答した。この結果から、一定の成果は得られたと言える。しかし、意識の変化は見られたものの、研究の目的に掲げた「子どもが各教科で得られた知識を活用したり、問題を見いだして解決策を考えたりできるような授業づくり」、「他の教科で身に付けた資質・能力の活用を促すことで深い学びにつなげられるようにする。」という点においては、少し意識できるようになったものの不十分であったのではないと思う。このことから、次年度からの研究では、単元で育成する資質・能力(各教科の視点)を明確化し、何をいつどのように学んでいくのかを考えて単元構成を行い、「深い学び」を実現するための授業づくりを行っていきたい。